

## 2019年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

国語科 2019年度重点目標		
項目1	目標	① 各学年または到達段階に応じた国語の力を生徒に身につけさせる。
	達成方法	① 漢字テストや単語テスト、文法テストなどの小テストを定期に実践する。また、読書や副教材やプリントを用いた課題(宿題)を理解度に応じて与えることで、家庭学習においても自発的に国語の学習に取り組めるようにする。
		・中学では読書指導や百人一首の暗唱などの活動を通じて文章や言葉に常に関心を持たせていく。
		・中学段階から論理的に物事を考え、理解するための言葉や文章を身につけ、高校段階では、現代文を通じて現代のさまざまな問題に対して多角的な見方や考え方があることを知り、広い視野のもと、物事を考えられるようにするとともに、自分の考えを筋道立てて表現できるようにする。
・古典を通じて歴史や文化の特色を理解するとともに、文法や句法の分析を通じて読解を深め、問題を解決できる力を養成する。		
項目2	目標	② 生徒が積極的に国語の学習に取り組める授業を実践する。
	達成目標	② 授業では、音読の機会、発問の機会、発表や発信の機会をできるだけ多く増やし、受け身ではなく主体的に授業に参加させていく。 ・多種多様な文章を多く取り上げて扱うことで、読解力や表現力の基本となる多くの語彙や授業に参加させていく。 ・多種多様な文章を多く取り上げて扱うことで、読解力や表現力の基本となる多くの語彙やさまざまなものの考え方や感じ方に触れさせ、習得させていく。
		・タブレットの活用と、「スタデイサプリ」などの自習教材アプリを活用し、能動的な学習を習慣化させる。
項目3	目標	③ タブレットや電子黒板を用いて、音声教材、映像教材を取り入れた五感を刺激する授業を実践する。
	達成方法	・教員間で密に連携しながら、授業研究を深める。授業見学なども積極的に行う。本文掲載や板書補助、映像や音声資料を電子黒板で積極的に活用する。タブレットの活用により、意見、発言のアウトプットを促す。
項目4	目標	④ 生徒の進路実現の為に、個別に親身になって生徒に対応する。
	達成方法	定期考査や小テストにおいて成績が伸び悩んでいる生徒には放課後や長期休業中に課題や補習を課して伸長をはかるとともに、生徒のニーズに応じ、授業や放課後講習などで積極的に演習(入試問題演習)を実践して、能力を伸ばしていく。

地歴公民科 2019年度重点目標

項目1	目標	学びの三要素(「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学びに向かう姿勢」)の育成につながる、ICTを駆使した探求型授業の展開と充実
	達成方法	・課題探究や協働作業などの観点を踏まえた評価を行うと同時に、それら进行评估するための授業展開を引き続き研究・確立・共有する。
		・議論の仕方やプレゼンテーションスキルの育成を授業を通じて行う。
		・個々の取り組みを教科全体で共有し、教科全体で目標達成に取り組む。
項目2	目標	大学入試改革に合わせた考査の作成や受験指導方法の確立
	達成方法	・知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力の発達度を正確に測り、その力を伸ばすための考査を作成する。
		・考えるられる課題として、教員個々に採点基準が異なることで結果に差異が生じないように、教科共通のルーブリックを検討する。
		・教科内で各教科担当の定期考査を共有し、検討する。
項目3	目標	学習指導要領改訂に先んじたカリキュラムの検討・完成
	達成方法	・上記2つの目標の達成がよりスムーズになるために有効なカリキュラムを検討・作成していく。
		・学習指導要領改定に伴い新たにできる高校生のカリキュラム(歴史総合、地理総合、公共)について検討する。
		・地歴公民科だけでなく、他科目とも連携できる教科横断型のカリキュラムを提案していくことも視野に入れる。

数学科 2019年度重点目標

項目1	目標	授業の質の向上
	達成方法	「反転授業」を取り入れ、演習量を増やすと共に、ALを活用し生徒の積極的な活動を促す。 研究授業による振り返りを行う。また積極的な授業見学を行い、意見交換をし、科としてのスキルアップを図る。
項目2	目標	ICTの活性化
	達成方法	タブレットを利用した授業の実践。スタディサプリを用いて予習など自学自習を促したり、自分の作った解答を交換し合い、自らの学習姿勢を整える。 模試や、大学入試問題の解説をビデオに撮り、インターネット上でいつでも自学自習できる環境を整える。
項目3	目標	基礎学力の定着
	達成方法	MMTや小テスト等のこまめな実施。合格点を設け、合格するまで丁寧に指導していく。 外部模試を検証し、弱点を随時把握し、講習等を用いて補強していく。
		中学3年生、高校1年生は数学検定を全員受検。他学年においても推奨していく。
項目4	目標	変わりゆく大学入試への適切な対応
	達成方法	大学の入試問題を解き、教科で研究し情報共有する。また、その入試問題の特徴をシートにまとめ、生徒へ情報還元する。 全教員で各定期テストを研究し、変わりゆく大学入試に適しているかどうかなど、質の向上を行う。
		研修などに参加し、教科で情報共有する。

理科 2019年度重点目標

項目1	目標	①生徒が理科に興味関心を抱き、進んで学習するような授業を計画し、基礎学力の定着および成績向上をはかる。
		②高校の生徒が大学受験に対応できるような授業展開および教科研究を実践する。
	達成方法	①授業中は、生徒が主体的に学習活動を行えるように、実験や実習、演習を多く取り入れる。
		・実験や観察が困難な単元では、講義型の授業だけにならないように、書く・考える・話し合うなどの活動を多く取り入れる。
		・授業内に小テストや振り返りを行うことにより、生徒自身が知識の定着を図れるような授業展開をする。
②知識の定着とともに、問題演習を行うことにより、より発展的な知識理解ができるような授業展開および考査を実施する。		
	・教科内で教員が情報共有を行い、受験指導は教科全員で行う。	
項目2	目標	タブレットや電子黒板を効果的に利用した授業を行う。
	達成方法	・学年及び科目ごとに、より効果的な教材を作成し、共有する。 ・タブレットを使った授業では、ロイロノートを使用しての復習や課題、スタディサプリを活用した予習・復習などを行うことにより、家庭学習でも効果的に使えるよう生徒に提案する。
項目3	目標	学年・クラス・コースごとに目的をもった教科指導を行う。
	達成方法	・高校3年生は、受験生指導として幅広い成績層の中で志望校別・レベル別に対応する。
		・高校2年生は、3年生から受験演習にスムーズに入れるように基礎学力の定着を図り、演習問題への着手を目指す。
		・高校1年生以下は、興味・関心を引き出すため、実験や視覚に訴える授業展開を意識する。また、基礎基本の定着を、問題演習や小テストを通して徹底する。
	・理科としての学力だけでなく、グローバル教育や環境問題なども視野に入れながら授業展開を行う。	

保健体育科 2019年度重点目標

項目1	目標	電子黒板・タブレットを生徒が主体的に活用して授業の実践を図る。
		授業を、運動学的に、わかりやすく説明・展開していく。
	達成方法	・実技では、タブレットで自分の運動を撮影し、確認修正をしながら技術の向上を図る。
		・グループ学習を通し、アクティブラーニングを進めながら、生徒の発表の機会を設ける。
項目2	目標	生涯を通じての、運動の実践の意義を理解させる。
	達成方法	・健康の大切さを認識させ、日常生活の中で積極的に運動を取り入れられるようにする。
項目3	目標	体育の授業実施にあたり、教員全員が共通の認識を持ち、指導の一貫性を図る。
	達成方法	・年度初めに生徒全員に向け、授業の心得を熟知させ、態度や意欲、礼儀など授業を通じて重要性を認識させる。

芸術科 2019年度重点目標

項目1	目標	アクティブラーニングを授業に取り入れ、主体的な取り組みを促す。
	目標	タブレットなどのICTを使い、よりわかりやすく深い授業を展開していく。
項目1	達成方法	・生徒間・生徒教員間の自由な意見交換を促すと共に、主体的な芸術の構築に努め、高いレベルの演奏・作品を目指す。
	達成方法	・授業の内容に応じてタブレットなどのICTを使って、課題の理解を深めさせる。
項目2	目標	芸術活動を通じて、目標に向かって諦めずに努力する姿勢を養い、達成感を通して豊かな心を養う。
	達成方法	・挨拶、姿勢、授業態度に留意し、芸術に取り組む基本的心構えを習得させる。
	達成方法	・音楽・美術・書道それぞれの科目の中で与えられた課題に真摯に取り組み、目標に向かって最後まで諦めずに努力する姿勢を養う。
項目3	達成方法	・高い目標を設定し、目標を達成するために仲間と協力し、その過程で生じる様々な問題を自ら解決していく力を育てる。
	目標	生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てる
項目3	達成方法	・芸術の崇高さと力強さを理解させ、芸術が自己及び第三者の心を豊かにすると共に、生きる力を与えることができることを実例をもって理解させる。
	達成方法	

外国語科 2019年度重点目標

		「実践的英語力」を目指した英語の授業の充実を目指す。
		英語をコミュニケーションの道具として理解し、実際の場面で利用できるようにする。
		英語学習が目的ではなく、英語が生徒それぞれの目的を達成するための強力な力であるという認識を生徒も教員も全員で共有する。
項目1	達成方法	・クラスルームイングリッシュを多用し、生徒の多様な英語活動を授業に取り入れる。
		・オンライン英会話を週1回行うことで、英語での実践的な会話力を養う。それによって英検の取得率を上げる。
		・アクティブラーニングを実践し、ピアサポートの中で生徒が英語でコミュニケーションを取るようにする。
		・タブレットのロイノートを使って、生徒がグループワークで課題プレゼンテーションを英語でするように指導する。
		・プレゼンテーションコンテストの指導を通して、生徒が大勢の人に対して自分の意見を英語で効果的に発表できるようにする。
		・ディベートの指導を通して、生徒が相手の立場を理解して、論理的に考え、自分の考えを相手に効率的に英語で伝えられるようにする。
項目2	目標	大学合格率の向上を推進する。
		アドバンスクラスの生徒は国立・私立難関校を積極的に受験し、受験した生徒の多くが希望校に進学する。
		コアクラスの生徒はGMARCHレベルの大学を積極的に受験し、受験した生徒の多くが希望校に進学する。
		GLC生は、海外大学やSGUを積極的に受験し、受験した生徒の多くが希望校に進学するようにする。
項目2	達成方法	・電子黒板の活用を促進する。教科書本文の解説、英文法や英語構文の分析・解説を電子ペンを使ってわかりやすく行う。
		・パワーポイントを利用して、動画やイラストを利用し、アニメーション機能を使って英文を立体的に理解できるようにする。
		・デジタル教科書のフラッシュカード、スラッシュリーディング、シャドーイングなどの機能を使って生徒の理解を促進する。
		・タブレットのスタディサプリEnglishで家庭学習を促進し、英語の合計学習時間を学校での授業時間の2倍以上になるようにする。
		・授業のスピードを上げ、教科書の範囲を早く終える。余裕の時間を利用し模試対策を授業時間内に実施する。
		・早朝・放課後の補習体制を整え、理解の遅い生徒を助け、生徒の全体的なレベルアップに繋げる。
項目2	目標	グローバルリーダースクラス(GLC)の充実を図る。
		GLCの授業活動が牽引力となってアドバンスクラスの英語の授業が変化するようにする。コアクラスにも会話の基礎力をつける。それによって、学校全体が「グローバル」の意識を持って、世界の課題を理解し、主体的に考えて行動するようにする。
		英語だけでなく第二外国語としてのフランス語の教育の普及を促進する。
項目2	達成方法	・ネイティブと日本人教員の協力を進め、教員間の英語でのコミュニケーションを密にする。教科会での英語の使用をより多くする。
		・英語の授業を教員がお互いに参観し、互いに資質向上の糧とする。
		・校外の様々な研修会に英語教員が積極的に参加する。また校内で英語ディベートの研修を行い、英語表現にディベート学習を導入する。
		・他教科の教員と連携を深める。特に生徒の日本語でのディベート力が伸びるように、校内の環境を整える。
		・海外提携校との連携を深める。帰国した生徒同士が交流する機会を多くする。両校の教員同士が互いを理解し新たな企画をする。
		・外国語発表会やコリブリの交流・留学を通じてフランス語の学習を盛んにする。仏語のネイティブの授業環境をより良くする。

家庭科 2019年度重点目標

項目1	目標	・21世紀型のアクティブラーニング授業を展開し、「自ら学ぶ姿勢」を身に付け、生徒自らが実践していくように導き、自ら課題を見つけ、解決する姿勢に導くことのできる、質の高い授業を展開できるようにする。	
		・技術分野で、将来、プログラミング教育を取り入れる準備を進める。アルゴリズムの考え方が理解できるようにする。	
		・グローバル人材育成の取り組みの充実を図るため、可能な場面での英語の使用機会をつくる。	
	達成方法	・日本の衣食住の文化・慣習をグローバルに紹介できるように、体験を取り入れて身に付けられるようにする。	
項目2	目標	・社会人として必要な生活の基本である「7つのルール」を徹底する。日本の伝統文化やマナーの学習で、特に「あいさつ」「清掃美化」「生活習慣の基礎」をしっかり身につけられ、人間力が備わった上で、学力がつくことを目指して指導する。	
		達成方法	・日々の授業で、「7つのルール」にのっとった授業を展開する。特に、挨拶は繰り返し指導することで身体化を目指す。
		達成方法	・学習の中で、生活環境を整えることの大切さを知り、清掃美化を実施することが心身ともに健康であるために大切であることを知らせる。
項目3	目標	・「目標に向かって最後まで諦めず努力する姿勢」を 培える場面を多様に配置する。	
		達成方法	・実習・課題、検定等を通し、成功体験を重ね、自らの行動に自信と誇りを持つことができるようにする。
		達成方法	・さらに、最後まで諦めず努力することの素晴らしさや、やり遂げたときの晴れやかな達成感を体感することで、さらにその気持ちを高められるようにする。
項目3	達成方法	・実習では、完成までのプロセスを観察し、完成品を評価して、次の機会に生かす工夫と技術の向上が目指せるようにする。	



情報科 2019年度重点目標

項目1	目標	ICTを活用する授業の実践
	達成方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノート・スクールやmanabaなどのクラウドシステムを活用した授業を実践する。</li> <li>・ICT活用委員会と連携し、システムトラブルやアプリケーションのアップデートに対応しつつ、授業を円滑にすすめられるよう校内のICT環境の整備に努める。</li> </ul>
項目2	目標	生徒が積極的に参加する授業の実践
	達成方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスソフトについて、基本的な操作方法の習得だけでなく、実践的に活用できるように、演習を中心にして、生徒が自ら学び考えて効率の良い操作方法を身につけるように促す。</li> <li>・ディスカッションやグループ発表形式を実践することで、知識習得だけでなく主体的に考えて行動できるようにする。</li> </ul>
項目3	目標	社会の変化や最新のICT技術に対応する
	達成方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新のICT技術の動向を常に注視し、外部研修会や展示会等に積極的に参加し教員間での情報共有に努める。それらを授業に還元できるよう努める。</li> <li>・外部資格試験の実施を検討する。</li> </ul>